

# 都市計画公園 愛宕山公園の名称変更（案）に関する意見に対する市の考え方

○意見募集期間：令和3年5月11日～令和3年6月9日

○結果：提出者8名 提出された意見19件

No.	意見の概要	市の考え方
1	<p><b>名称の代案</b></p> <p>愛宕山笠沙の御碕公園は長すぎるので、「笠沙公園」等でもいいのではないのでしょうか。</p>	<p>今回の変更案は、日向神話を踏まえ「笠沙の御碕」という言葉を省略せずに加えたいとの考えによるものです。また「愛宕山」という名称も市民の皆さまになじみがあり、愛着が深いものと考えておりますので、「愛宕山」という名称も残した形が望ましいと判断したところです。</p>
2	<p><b>その他の意見（愛宕山でのイベント）</b></p> <p>愛宕山の日等を決めて、イベントを1年に1回実施したらどうでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・散歩で登山する方は多い。イベントの一環として行事を行う。</li> <li>・春、秋には周りから見て綺麗な景色にするため、桜や紅葉樹を植える行事を募ってみる。</li> </ul> <p>文化功労の日に合わせて下記について表彰してはどうでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供から大人までに愛宕山に関する写真、絵画、詩、短歌、作文等を募集して各部門の賞を作ってはどうか。</li> </ul> <p>このような行事を通して、市民との繋がりが出来ると良いと思います。色々な行事に関わって、楽しい町だと思えるようになりたいです。</p>	<p>ご提案頂いたイベント案については、市民の皆さまのご意見なども踏まえながら、総合的な視点から考えさせて頂きたいと思っております。</p> <p>なお、7月3日から行われる「国民文化祭みやぎ2020」におきまして、愛宕山展望台にイラストレーター「みよこみよこ」さんによる日向神話をテーマとしたパネル展示、神話の光アート展などが行われる予定です。こういった様々な行事・イベントと連携して愛宕山公園を活用した取り組みを考えているところです。</p> <p>また、良好な景色を確保するために、まずは景観を阻害するような樹木の剪定に取り組んでいきます。</p>
3	<p><b>変更案に賛成</b></p> <p>愛宕山が昔は笠沙山と呼ばれていたと初めて知りました。愛宕山は全国にたくさんあるが、笠沙山はどのくらいあるのでしょうか。</p> <p>神様の出逢いの聖地という貴重な山が延岡にあることは市民にとってありがたいと、名称を変えたら全国から注目されるのではないかと思います。ぜひ今回の公園名称変更をお願いします。</p> <p>子どもや孫、観光客にも由緒が分かるように展望台の2階に紹介コーナーを設置していただけないのでしょうか。また、道路案内標識や公園案内看板の設置も同時に実施すると良いと思います。</p>	<p>現在、展望台に由緒を記載した説明板を設置しており、また、公園内にも石碑や説明板を設置し、公園利用者の皆さまに日向神話ゆかりの地であることを紹介しているところです。他にも、愛宕山展望台にイラストレーター「みよこみよこ」さんによる日向神話をテーマとしたパネル展示が行われる予定です。公園の案内看板や道路標識については、「愛宕山公園」と記載されているものは、名称変更の手続きが完了しましたら「愛宕山笠沙の御碕公園」への書き換えを行うなど、更なる周知を図ってまいります。</p> <p>なお、国土院地図サイトで調べた範囲では、全国では笠沙山と呼ばれている山はありませんでした。</p>
4	<p><b>変更案に賛成</b></p> <p>「愛宕山笠沙の御碕公園」に名称変更することには賛成です。</p> <p>愛宕山が古来より江戸時代中期まで笠沙山と呼ばれていた、その根拠となる文献を記述します。</p> <p>①「日向國御料発端其外旧記（徳川幕府直轄地富高陣屋記録1858年）」、②「日向国名所歌集（安藤通故1867年）」、③「日向国神跡考（樋口種實）」、④「愛宕神社由来記（宮崎県神社誌1988年）」、⑤「愛宕神社沿革について（愛宕神社社務所）」、⑥「宮崎県史蹟調査報告（1924年）」、⑦「延岡附近神代遺蹟と伝説（山口徳之助1925年）」、⑧「笠沙御碕の碑（延岡聖蹟顕彰会 昭和15年）」、⑨「日向国の神々の聖蹟巡礼（宮崎照雄2017年）」</p> <p>以上の文献資料により、文献史的に視た「吾田長屋笠狭之御碕」の考察として、愛宕山は江戸時代に延岡藩はもとより徳川幕府直轄地の富高陣屋においてもその所在が認知されており、西臼杵高千穂と北川陵墓参考地とも相まって、地理的にも合致し、瓊瓊杵尊と木花咲耶姫が会った「笠狭之御碕」は、延岡市愛宕山である。</p> <p>「古事記」、「日本書紀」、「日向國風土」に記述されている「笠狭之御碕」は現在の延岡市愛宕山であり、此の地名「笠沙山」「笠沙之御碕」を後世に語り繋いでいくことが私たちの役目であると考えています。</p> <p>名称変更することは、後世に伝えていくことと合わせ全国的にも神話観光地として発信することとなり、観光誘客に資する効果は大と考えます。</p>	<p>「愛宕山」と「笠沙」を結びつけることが確認できる歴史資料としては、江戸時代の国学者である樋口種実の著書「日向国神跡考」等に同様の記述が確認できるのみであり、そのことが事実であることを証明する、同時期に確認された文献や絵図等は現在のところ確認できていない状況です。</p> <p>都市計画法上の手続きを踏まえる上では、正確にお伝えすることが必要と考えております。一方で、日向神話ゆかりの地であることは延岡市としても大いにPRし、観光地としての更なる魅力向上を図りたいと考えておりますので、今回の名称変更手続きを進めているところです。</p> <p>ご意見の中にあります文献の記述等につきましては、日向神話ゆかりに関する資料として、市のホームページ等で紹介をしたいと思いますと考えております。</p>
5	<p><b>変更案に賛成</b></p> <p>名称変更する市の方針に賛同します。変更することで市の公園として、また、観光地として更に充実していくものと思います。</p> <p>気になることとして、市の方針に「江戸時代より前に、愛宕山が笠沙山もしくは笠沙之御碕と呼ばれていたことを記す史料は現在のところ確認することはできていませんが…」とあるが、調べてみると江戸時代には複数の史料が確認されていることがわかりました。</p> <p>市の方針を伝えるならば、まず江戸時代に確認されている史料があることをお知らせし、江戸時代より前の史料は現在のところ確認されていないと記述されることが正しい市の方針であり公文書ではないかと思います。</p> <p>そうしないと市民の皆さんが偏った情報で間違った判断をしてしまう可能性が大いと考えます。</p>	<p>「愛宕山」と「笠沙」を結びつけることが確認できる歴史資料としては、江戸時代の国学者である樋口種実の著書「日向国神跡考」等に同様の記述が確認できるのみであり、そのことが事実であることを証明する、同時期に確認された文献や絵図等は現在のところ確認できていない状況です。</p> <p>都市計画法上の手続きを踏まえる上では、正確にお伝えすることが必要と考えております。一方で、日向神話ゆかりの地であることは延岡市としても大いにPRし、観光地としての更なる魅力向上を図りたいと考えておりますので、今回の名称変更手続きを進めているところです。</p> <p>ご意見の中にあります文献の記述等につきましては、日向神話ゆかりに関する資料として、市のホームページ等で紹介をしたいと思いますと考えております。</p>
6	<p><b>変更案に賛成</b></p> <p>本件の要望は、観光方面からの要請だけでなく、日向神話の史実性についての関心が延岡において高まっていることが背景にあると思います。</p> <p>まず、高千穂論争について私見を申し上げます。なぜ今日霧島高千穂説が有力とされているかというと、理由の一つに、延岡には「笠狭」という地名は見当たらないとされており、延岡の愛宕山が、江戸時代以前は「笠狭山」と呼ばれていたことが、地元を除いて、ほとんど知られていなかったのです。</p> <p>「愛宕神社縁革史」には『…山ノ名ヲ笠沙山ト呼ヒシヲ改メテ愛宕山ト称ス…』とあり、「日向國御料発端其外旧記」には『吾田長屋笠狭之御碕の所在は延岡城下』とあります。ということは、日向では、江戸時代まで愛宕山が「笠狭之御碕」と認識されており、瓊瓊杵尊一行の天下りが、延岡から土々呂、そして日向に至ったことが知られていたのです。</p> <p>延岡は愛宕山がかつて「笠狭山」と呼ばれていたことを根拠に、笠沙の御碕＝延岡愛宕山説を主張すべきであると思います。</p> <p>以上、延岡の愛宕山が笠狭山と呼ばれていたという史実が確認されたことに伴い、愛宕山公園を愛宕山笠沙の御碕公園と改称することについて、賛成意見を申し述べさせていただきます。</p>	<p>「愛宕山」と「笠沙」を結びつけることが確認できる歴史資料としては、江戸時代の国学者である樋口種実の著書「日向国神跡考」等に同様の記述が確認できるのみであり、そのことが事実であることを証明する、同時期に確認された文献や絵図等は現在のところ確認できていない状況です。</p> <p>都市計画法上の手続きを踏まえる上では、正確にお伝えすることが必要と考えております。一方で、日向神話ゆかりの地であることは延岡市としても大いにPRし、観光地としての更なる魅力向上を図りたいと考えておりますので、今回の名称変更手続きを進めているところです。</p> <p>ご意見の中にあります文献の記述等につきましては、日向神話ゆかりに関する資料として、市のホームページ等で紹介をしたいと思いますと考えております。</p>

## 都市計画公園 愛宕山公園の名称変更（案）に関する意見に対する市の考え方

○意見募集期間：令和3年5月11日～令和3年6月9日

○結果：提出者8名 提出された意見19件

No.	意見の概要		市の考え方
7	その他の意見 (笠沙の岬の根拠について)	神話の年代は、縄文時代ですか。	神話は、奈良時代に作られた古事記や日本書紀に書かれたものであるため分かりません。
8	その他の意見 (笠沙の岬の根拠について)	縄文時代に九州地区で起きた喜界カルデラ噴火では、南九州地区（鹿児島県、宮崎県南部、熊本県南部）の縄文人が生存していた可能性はありますか。	鬼界カルデラ噴火による南九州地域の被害については、場所によって差があったと考えられています。火砕流が到達した範囲（薩摩・大隅両半島の桜島より南側のエリア）は、植生が壊滅するなど環境に大きな影響があり、生存者は移住したと考えられています。
9	その他の意見 (笠沙の岬の根拠について)	延岡地区の喜界カルデラ噴火の影響は、どの程度の影響があったと思われますか。	延岡地域は、鬼界アカホヤ火山灰が約10cm～30cm堆積しています。植生への影響は多少あったと考えられますが、人々は土地の環境に合わせて生活したと考えられています。
10	その他の意見 (笠沙の岬の根拠について)	喜界カルデラ噴火の影響は、噴火レベルから考慮すると、成層圏へ火山灰が到達し、太陽（天照大御神）が隠れたと思われませんか。	鬼界カルデラの噴火で、噴煙は成層圏まで到達し、日照時間に変化があったと考えられますが、どの程度の影響があったかは分かりません。
11	その他の意見 (笠沙の岬の根拠について)	縄文海進のときの海岸線から、笠沙の岬の可能性はありますか。	愛宕山周辺に貝塚が分布していることから、縄文海進の頃には愛宕山は岬のような地形であったと考えられます。
12	その他の意見 (笠沙の岬の根拠について)	カルデラ噴火で生き残った地元のコノハナサクヤヒメと降臨されたニニギノミコトの出会いの地と考えてもよいのですか。	古事記や日本書紀では、コノハナサクヤヒメとニニギノミコトが笠沙の岬で出会ったとされていますが、考古学的な根拠はありません。
13	その他の意見 (笠沙の岬の根拠について)	コノハナサクヤヒメの生んだ子の名前が延岡に多く残っているのはなぜですか。	地名の由来については、検証する資料等がなく分かりません。
14	その他の意見 (笠沙の岬の根拠について)	北川町のニニギノミコトのご陵墓の横にコノハナサクヤヒメのご陵墓があったと聞いていますが、事実ですか。（現在日豊本線線路内）	日豊本線の線路敷設前に古墳があったと言われていたようですが、調査記録等もなく、その被葬者については不明です。
15	その他の意見 (笠沙の岬の根拠について)	笠沙の岬は出逢いの聖地とされています。この神話の世界は実証できる文献もなく、由来を検証する文書はありません。そこで、自然現象と考古学から、延岡が神話のふるさとの可能性を見出す意見を投稿いたします。神話の舞台は、縄文時代から弥生時代への切り替わりのときと想定されます。神話に関する縄文時代前期に起きた自然現象は、喜界カルデラ噴火と縄文海進です。喜界カルデラ噴火は、火山爆発指数7（※1）の規模で南九州の縄文文化を壊滅し、延岡地区にも30～50cmアカホヤとして堆積した。このアカホヤ地層の下に鹿児島地方の縄文遺跡が発掘され、その後縄文後期まで人が生活した痕跡はありません。この火山爆発は、地球環境に多大な影響を与え、成層圏に噴煙が浮遊したために、何十日も太陽が見えなくなる現象が起こりうる。この現象は、古事記では天照大御神がお隠れになった天岩戸神話として、人々が困窮することが表現されていると推察されます。現在の愛宕山は、笠沙の岬と言われた時点の地形は、縄文海進のときは古延岡湾が複雑な入り江で、現在の市街地は水没しており、愛宕山は山ではなく岬の様相です。この検証は、貝塚の遺跡の存在地が縄文海進の海岸線から想定されます。  （※1）火山そのものの大きさではなく、その時々爆発の大きさの指標。区分は噴出物の量でなされる。0から8に区分され、8が最大規模である。（神戸大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻准教授著「喜界カルデラの大噴火」参照）	縄文時代は、10,000年以上の期間にわたって続き、考古学では「草創期・早期・前期・中期・後期・晩期」の6期に区分しています。鬼界カルデラの噴火は、約B.C. 5300年（今から7300年前）頃と推定され、「縄文時代早期末から前期」に位置づけられます。また、縄文海進のピークは約B.C. 4000年（今から6000年前）頃の「縄文時代前期」に位置づけられます。ご意見の中で、「神話の舞台は縄文時代と弥生時代の切り替わりの時」と想定されておられますが、この切り替わりの時は考古学でも議論が絶えないところですが、一般的に約B.C. 900～400年（今から3000～1600年前）頃であると考えられており、鬼界カルデラの噴火や縄文海進の年代とは隔たりがあるところですが、神話の舞台とされている年代は分かりませんが、ご意見にある通り、愛宕山周辺には貝塚が分布していることから、縄文海進の頃には愛宕山は岬のような地形であったと考えられます。
16	変更案に賛成	愛宕山公園の名称を「愛宕山笠沙の御碕公園」に変更することに賛成です。 全国的には、ニニギノミコトとコノハナサクヤヒメが出会った笠沙の岬は、鹿児島県さつま市の野間岬と言われているようですが、愛宕山は、江戸時代まで「笠沙山」「笠沙御碕」と呼ばれていたことから、名称を「愛宕山笠沙の御碕公園」に変更することを全国的にPRして下さい。PRする上で大切なことなので、名称の由来（説明）も掲示して下さい。 延岡の人は、PRするのが下手だと県外の人によく言われます。延岡市として大いにPR発信して下さい。	名称変更手続きが完了しましたら、名称とともに、その名称が日向神話を踏まえたものであることについても、市のホームページやフェイスブック、ライン等で積極的に情報発信を行ってまいります。
17	変更案に賛成	公園名称を「愛宕山笠沙の御碕公園」に賛同いたします。 江戸時代の愛宕神社移設を受けて愛宕山に改称されたとの伝承が残っており、観光資源としての大きな取り組みとして愛宕山自体の愛称を「笠沙の御碕」と指定することや、将来的には愛宕山の名称を「笠沙山」に戻すなどの検討があってもいいと考えております。 西郷隆盛宿陣跡資料館の駐車場やニニギノミコト御陵墓参考地の整備、城山の観光案内板の多言語化など観光環境の整備が着々と進んでいることを感じております。 「愛宕山笠沙の御碕公園」におきましても、更なる環境の改善に益々期待しております。	確認しましたところ、山の名称を変えるには、自然地名の訂正という取扱いになるとのことです。訂正を行うには、地域の皆さまに定着していることが前提となっておりますので、まずは「愛宕山笠沙の御碕公園」という名称を広くPRし、定着するよう図ってまいります。 今後も、他の観光地と同様に、愛宕山公園につきましても観光地としての環境改善に取り組んでまいります。

## 都市計画公園 愛宕山公園の名称変更（案）に関する意見に対する市の考え方

○意見募集期間：令和3年5月11日～令和3年6月9日

○結果：提出者8名 提出された意見19件

No.	意見の概要	市の考え方
18	<p><b>その他の意見 (観光資源認知 について)</b></p> <p>名称変更は観光協会様の後押しがあったと伺っています。延岡市でも観光誘致への取り組みとしてHPなどへの情報掲載も積極的に取り組まれていると感じます。 これを機会に宮崎県観光協会、宮崎県観光推進課が運営する「みやざき観光情報旬ナビ」など、県全体の観光誘致HPの情報更新に取り組まれることを期待します。魅力的な内容へと変更し、国内外にアピールできるように協議を重ねられることを深く期待します。 日向神話について時代考証の正当性を示すことは困難であり、他の地域と同じように「諸説あり」として県内の観光スポットを増強していくことが宮崎県が目指す方向ではないか思料します。</p>	<p>本市の情報発信につきましては、最新の情報かつ魅力的な内容へと随時更新しているところであり、直近では、日向神話をテーマとした外国人にも対応した動画を制作し、延岡観光協会のホームページやYou Tubeへの掲載により、地域の魅力発信に努めているところでもあります。 今後は、「みやざき観光情報旬ナビ」等への掲載について、関係機関との協議を進めてまいります。</p>
19	<p><b>その他の意見 (路線バス利用 政策の推進に ついて)</b></p> <p>コロナ後の観光誘致を考えたときに、バス利用促進の政策推進が必要であると考えています。残念ながら、インバウンド対策として実施していた「Visit Miyazaki Bus Pass (外国人旅行者専用乗車券)」において延岡の観光地や路線図はパンフレットから除外されています。 レンタカー利用を前提とした場合、「日帰り観光地」としてのニーズは少なく、宿泊・飲食の観光客の見込み数が大きく減少しますが、外国人や高齢者など運転に不安を感じる層に公共交通機関の利用を促進することで呼び込める可能性が出てきます。 宮崎県全体が路線バスでの観光パターンを整理して提供することにより、高千穂町内を中心とする宿泊数の増加や、県全体での裨益増を得ることが可能になると強く感じています。</p>	<p>インバウンドの利用が多い「Visit Miyazaki Bus Pass (外国人旅行者専用乗車券)」につきましては、本市はエリアとしての登録はされておきませんが、延岡バスセンターでもチケットが販売されています。 コロナ禍前の令和元年度に本市の外国人宿泊者数は過去最高となるなど、本市のインバウンド観光はもっと伸ばしていけると考えておりますので、今後は、本市のエリア追加について関係機関と協議を進めるとともに、本市を紹介したインバウンド向けのパンフレットを購入窓口に設置するなど、市内の観光施設等への誘客促進にさらに尽力していきたいと考えております。</p>